

# 週刊 タバコの正体

日本はGDP(国内総生産)で世界3位に入る経済大国です。そして、世界10位となる1億2千万人もの人が暮らしています。だから日本には、あらゆるモノが溢れています。食材、日用品、衣類、レジャー用品、電気製品……ジャンル分けをするだけでも気が遠くなるほどの種類がありそうです。

そんな状況を象徴しているのが自動販売機の設置台数です。いったいどのくらいあると思いますか。2011年末時点で508万台だそうです。国民24人に一台の計算になるのですが、「そんなに必要？」だと感じませんか。じつは、その508万台のうち32万台がタバコの自販機で、国民375人に一台の割合です。こちらもさらに「そんなに必要？」と思いますよね。



また、自販機なみにいたるところにあるのがコンビニです。その店舗数は2013年4月時点で4万7千店<sup>ii</sup>。自販機と同じく、ほとんどは24時間営業です。

写真は、そのコンビニのレジ後方の景色です。どのコンビニでもこんな光景を目にしますよね。お客さんの真正面に、200種類近くのタバコがズラッと並んでいます。

現在、男女を合わせた成人の喫煙率は約20%、喫煙者数は推計で2300万人だと言われています。2300万人という数は決して少なくありません。でも日本全体で見れば、1億人近くの方はタバコを必要としていないのですから、喫煙者は少数派です。

なのに、32万台もの自販機と4万7千店のコンビニでタバコを24時間販売している国は、世界でもめずらしい存在です。日本は“経済大国”である一方“タバコ大国”でもあるのです。あまり名誉なことではありません。タバコ臭くない日本にするために、この状況は変えていかなければいけませんよね。

産業デザイン科 奥田 恭久

i 一般社団法人 日本自動販売機工業会調べ

ii 一般社団法人 日本フランチャイズチェーン協会調べ